

# 東都大学図書館通信(深谷キャンパス)

## 心地よい秋の始まりです

～「読書の秋」にぜひ読書を～

### 1. 花火の歴史

この夏、花火大会にお出かけになった方も多いことでしょう。いまはテレビやインターネットを通じて花火を觀賞することもできますが、やはり「ドン」という花火音とともに夜空いっぱいに広がる実物の花火をみると、より大きな感動を得られるように思います。さて、花火について少しお話ししましょう。花火のもととなる黒色火薬は、紀元前の中国で錬丹術(不老長寿の薬をつくる術)の偶然の産物として誕生しました。当時、黒色火薬は薬や兵器、通信手段などに使われていましたが、13世紀にヨーロッパへ伝わると花火の技術が生み出され、貴族間で花火大会が催されるようになります。日本には1543年の鉄砲伝来時に黒色火薬が伝えられましたが、花火を鑑賞するようになったのは江戸時代からと言われています(ちなみに日本で初めて花火觀賞をしたのは徳川家康だそうです)。花火見物のときによく「たまや～」という掛け声を耳にしますが、これは当時活躍していた花火業者の「鍵屋」と「玉屋」に由来します。両者が花火競演をすると「かぎや～」「たまや～」と応援の掛け声がかかるようになり、その風習が現在まで続いているのです。世界的にみても日本の花火は類をみない美しさなのだそうです。高い技術をもつ日本の花火師さん達を誇らしく思いますね。



花火の図鑑  
(泉谷 彦作・写真・文/ポプラ社・刊)

### 2. 心の支えになる言葉をお持ちですか

勉強や試験がうまくいかなかったり、友人関係に悩んだり、なかなか自分の思い描くようにことが運ばず、どうしたらいいかわからなくなってしまったとき、自分の心の支えになる教えや言葉をもっていると、自分を見失わず、安定した気持ちを保つことができます。先人たちが遺した教えに触れ、胸にストンと落ちる言葉があったら、ノートに書き留めたりして自分のそばに置いてみてはいかがでしょうか。いろいろなことがしんどくなった時、書き留めておいた言葉を見つめると自分を取り戻せるような感覚が芽生えます。その「心の支えとなる言葉」に出会えたことは偶然だったかもしれないし、必然であったかもしれませんが、でも、もしかしたら一生目に触れなかったかもしれないその教えや言葉に出会えたことは、皆さんにとって貴重であり、たいへん幸せなことだと思います。その時々自分の状況で胸に響く言葉は変わってくるものです。ぜひたくさんの本を開き、多くの先人たちの教えに触れ、「精神の軸」を確立してみてもいかがでしょうか。安定した気持ちと豊かな心は、きっと皆さんの生活をも豊かなものとしてくれることでしょう。本学のヒューマンケアの原点である「忠恕」も論語に由来しています。



現代語訳 論語  
(斎藤 孝・訳/筑摩書房・刊)

### 3. カレーのお話

日本人が1年間にカレーを食べる量は1人あたり約50食とされています。これは週1回のペースでカレーを食べていることになり、いまやカレーは日本の国民食と呼べるほど私たちの生活に馴染んでいます。カレーの発祥はインドですが、実はインドにはカレーという言葉はなく、「スパイスやハーブで具材を煮込んだスープ」のことを外国人が総称してカレーと呼んでいるのだそうです。ちなみにカレーという言葉は、インドのタミール語で汁物を意味する「Kari(カリ)」に由来すると言われています。カレーは18世紀にインドからイギリスへ伝わり、その後、イギリスのC&B社から世界初のカレー粉が発売されますが、スパイスの調合なしでカレーが手軽に作れるとあって、瞬間にイギリスの食生活へ浸透していきましました。C&B社のカレー粉は国外にも輸出され、日本には明治初期ごろ輸入されます。当時高価な料理とされていたカレーは次第に大衆へと普及し、特にご飯と合わせたカレーライス(当時はライスカレー)は多くの日本人に好まれました。以降、カレーは世界中で愛される料理となり、いまでも私たちの食欲を満たし続けています。



にっぽん洋食物語大全  
(小菅 桂子・著/筑摩書房・刊)

### 4. 化粧の効果

皆さんはクレオパトラの肖像をご覧になったことがありますか? 古代エジプト女性は目を黒く縁取る独特な粧いをしていましたが、これは目の感染病を防ぐための手段だったと言われています。日本における化粧文化については、古墳時代の埴輪をみれば顔に赤色顔料を塗る風習があったことが想像できますし、『古事記』や『日本書紀』、『万葉集』の記述からは眉の形を整える習慣があったことがわかります。化粧をすると気持ちが前向きになり、自分に自信がもてる感覚をおぼえますが、この化粧の力を活用した「化粧療法(メイクセラピー)」がいま医療現場にも取り入れられています。高齢者施設や介護現場で高齢女性を対象にメイクを施したところ、食事やトイレの介助が不要になるなど患者さんの自立度が上がったという事例が報告されています。また、患者さん自身が化粧動作を行うことで脳が活性化され、認知症の進行が抑制されるという効果も期待されています。入浴や散髪も広い意味で化粧行為に含まれるそうですから、日常的な行動の一部なら男性の方も挑戦しやすいのではないのでしょうか。心身を健康に導いてくれる化粧療法は、なによりの特効薬なのかもしれません。



化粧行動の社会心理学  
(大坊 郁夫・編集/北大路書房・刊)

## 「ワトソン看護論 ヒューマンケアリングの科学」に見る看護観

ヒューマンケア学部 教授 大学院準備室 石川眞里子

本書について、看護学科および管理栄養学科の学生の皆さんには馴染みがあるかもしれませんが、本学の必須科目「ヒューマンケア概論」の参考書として紹介されている本です。本学が看護学、栄養学、理学療法学における医療者教育として「ヒューマンケア」を基盤にしていることから、私が4月に赴任してから改めて学ぶために読んだ書籍です。一般に翻訳本は日本語表現が難解となることが多いので原本を読むことを薦められますが、本書はJean Watson 先生が著者であり、稲岡先生ご夫妻と戸村道子先生(日赤広島看護大学)が翻訳されており、大変分かりやすいです。訳者の言葉に「原文を一行一行読み解き、語句の解釈、文脈から意味の読みこなし、日本語表現などを幾度も比較・検討された」と書かれており、大変丁寧に翻訳されているので、安心して日本語で読めます。第1章は、「理論とは何か」で始まり、理論の原則を述べてから「概念」について図を示し、具体と抽象の視座、固定と流動の座標軸の説明があり、Royの適応の概念とRogersのエネルギー場の概念の位置関係の例が示してあります。また、著者の出発点として、その座標軸の第4象限の右下枠に位置を示してあり(図1-3)、「人間科学としての看護学と看護の道徳的理念としてのケアリング」を表しています。さらに「看護を見るための新しい見方」では、「看護学と科学の他の分野との明らかな違いは、文脈・プロセス・関連する概念—看護・ケアリング・人間・生命・人間関係・健康・ヒーリング・死ぬことなど—が難解であるということである。」という前提を示しています。そして、「単なる臨床的・経験的・生物物理学的現象ではなく、倫理的・哲学的・スピリチュアル・そして形而上学的現象でさえあり、看護とケアリングの科学に特有の主要な現象として取り上げ、尊重されなくてはならない。」と他の科学との違いを述べています。それは、伝統的科学とヒューマンケアリングの科学との視座の相違点として示しており、看護研究における質的研究の科学性を示すことにも繋がっています。さらに第4章の「ヒューマンケアリングの価値観」の6項目に「知識に裏付けられ、情報に基づいた倫理的なヒューマンケアリングは、専門職としての看護の価値観、責任、心ざわしい行動の本質をなす。これが中心的統合的源泉となって、看護職の社会に対する約束が守られ、その存続が保証されるのである。」(Leininger, 1981)というように、職業規範にも触れています。

ヒューマンケアリングは提供する看護者・医療者だけでなく、ケアの受け手である患者さんとの相互作用によっても様々な様相が示されるので、皆さんは人間関係の構築についても自分の考えを深めていけるよう努力してくださいね。

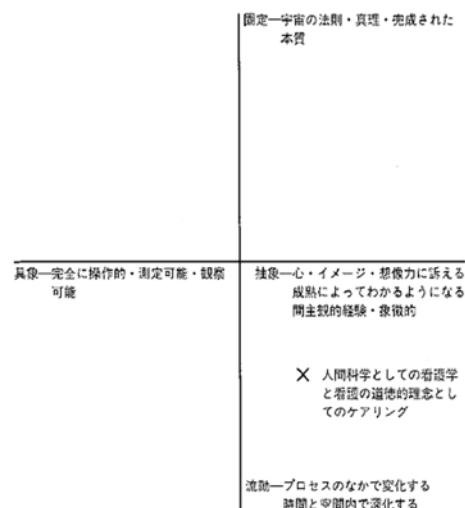


図1-3 概念を表す座標軸—具象・抽象と固定・流動

出典：ジーン・ワトソン著『ワトソン看護論—ヒューマンケアリングの科学(第2版)』(医学書院, 2014.9) p.11

## ハプスブルク展 600年にわたる帝国コレクションの歴史



(上) ティエポ・パラスカス(傭)の「マリア・テレジア」  
1659年 ウィーン美術史美術館 Kunsthistorisches Museum Wien

13世紀末にオーストリアへ進出した後、次第に勢力を拡大し、広大な帝国を築き上げたハプスブルク家。ルドルフ1世からカール1世におよぶまで実に600年に渡り続いたハプスブルク帝国は、欧州で最も由緒ある王朝でした。そんな欧州随一の名門であるハプスブルク家は、実は世界屈指の美術コレクションを築いたことでも有名です。コレクションの礎は、同家の発展にも重要な役割を果たしたマクシミリアン1世によって築かれ、以後、ルドルフ2世、フェルディナント・カール、レオポルト・ヴィルヘルムらによって多彩な作品が収集されます。本展では、この貴重なコレクションから絵画や工芸品、武具など約100点もの

作品を展示するとともにその歴史について紐解いていきます。「国母」と慕われたマリア・テレジアやフランス革命の悲運の王女マリー・アントワネットなどの肖像画も展示されます。ハプスブルク家にゆかりある作品をこの機会にぜひご覧ください。

会場：国立西洋美術館(東京・上野公園) 〒110-0007 東京都台東区上野公園 7-7 会期：2019年10月19日(土)～2020年1月26日(日) 開館時間：9:30～17:30(金・土曜日は20:00まで。11月30日(土)は17:30まで) 入館は閉館の30分前まで。 休館日：毎週月曜日(ただし祝日の11月4日、1月13日は開館)、11月5日(火)、12月28日(土)～1月1日(水)、1月14日(火) 観覧料(当日券)：一般1,700円/大学生1,100円/高校生700円/中学生以下は無料。\*心身に障害のある方と付添者1名は無料(入館の際に障害者手帳をご提示ください)。 展覧会公式サイト：<https://habsburg2019.jp/> 展覧会ツイッター：@habs2019 お問合せ：03-5777-8600(ハロ-ダイヤル)

## 学習スペースの配置が変わりました



利用者の皆様の利便性を図り、学習スペースを配置換え致しました。館内が広々とした、空いている席が探しやすい、などご好評いただいております。雰囲気が変わった図書館で、自分の時間を過ごしてみませんか。

## 薔薇(バラ)

気品に溢れた様子で咲き誇る薔薇たち。1輪でもその存在感は圧倒的で、花の女王の異名を誇ります。種類は市場に流通しているだけでも600種類。見る人を魅了してやまないバラの花々は、春と秋に楽しむことができます。【参考文献】『いちばん探しやすいフローリスト花図鑑』(穴戸純・監修/世界文化社・刊)

